

研究主題 児童生徒の「生涯学習力」を高める教育課程の編成

研究の概要

1 研究主題設定の理由

(1) 私の応援計画（個別の教育支援計画）の活用

本校では、平成26年度から28年度までの3年間、「ひと・地域・未来をつなぐ」をテーマに研究を行い、その中で児童生徒と学校、保護者、関係機関等をつなぐためのツールが必要であると考えた。そこで、個別の教育支援計画に着目し、平成27年度より本人と保護者が当事者意識をもって作ることができるように、名前を「私の応援計画」として、関係者と連携した支援を行うためのツールとして積極的に活用している。この計画は、児童生徒が「夢」や「願い」、「目標」を教師や保護者との対話の中から見だし、自分のよさや長所に着目しながら、本人が主体となって作成するものである。この実践を通して得られた成果は次の2点である。

適切な「教育的ニーズ」の把握

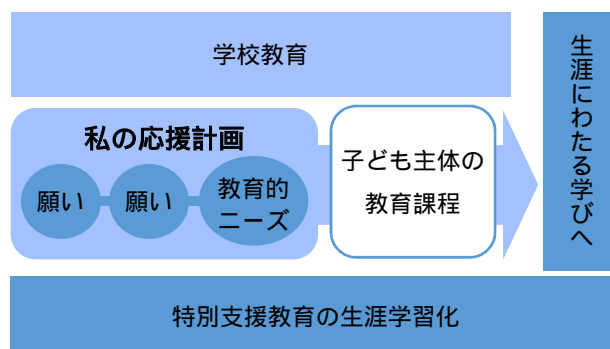
児童生徒の「思い」「願い」「夢」「なりたい自分」を教師が把握することで、児童生徒主体で教育課程を編成しようという意識が高まった。学ぶべきことを先に決めるのではなく、児童生徒が学校の教育に何を求めているかという視点で指導内容を選定、配列することで、本人主体の教育課程の編成が可能になった。学部ごとに実態とライフステージに応じた工夫をしながら、「教育的ニーズ」を把握している。

学びの主体は児童生徒

「私の応援計画」を活用した教育課程編成の新しいシステムが構築されたことで、児童生徒自身が学びの主体者であるという意識が高まった。児童生徒が「夢や願い」「目標」を自分の言葉で発信する機会が増え、日常的に「こんな自分になりたい」などの「願い」を話題にするようになった。

(2) 社会的背景

平成29年4月に文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が出され、障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支援するための取組が開始された。学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について - 誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して - 」では、学校教育における学びと学校卒業後の学びを接続し、生涯にわたって学び続けられるようにすることの重要性や、学校教育から卒業後の学びに円滑に移行するために、個別の教育支援計画活用の仕組みを強化する必要性などが述べられている。



(3) 本校のニーズより

言葉で気持ちを伝えることが難しい児童生徒の場合も、保護者や教師が「思い」を読み取りながら「願い」を把握することで、児童生徒主体の指導内容を設定することができ、自ら学びに向かう姿が多く見られるようになった。児童生徒自身が学びの主体であることを自覚し、何を学びたいか語れるようになってきたことは、生涯にわたって成長し続けるための力を育む素地となる。

本人、保護者、教師、地域、関係機関が一体となって、卒業後の社会生活を見据えた「生涯学習」という視点での教育活動を充実させるためには、学校生活の中でどのような力（資質・能力）を育むべきか見極めることが重要である。また、学校における教育資源にはどのようなものがあるか整理し、卒業後も活用できるような新たな資源を開拓する必要もある。さらに、児童生徒の在学中の姿だけでなく、学校卒業後の姿（働く・暮らす・楽しむ）も視野に入れるべきであると考えた。

以上の観点から、これまでの研究の成果を基に、児童生徒が生涯にわたって学びに向かい、成長しようとするための力を身に付けてほしいと願い、本研究主題を設定した。

2 研究の内容と方法

(1) 研究仮説

「生涯学習」につながる視点をもった教育課程を編成し、児童生徒個々のよさや長所に着目した実践を行うことで、主体的にヒト・モノ・コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい、成長しようとする力（生涯学習力）を高めることができるだろう。

(2) 研究初年度（平成31年度） 平成31年度研究紀要第46集参照

生涯学習についての研修会の実施

- ・校内研修会（秋田大学 原 義彦 教授，秋田県生涯学習センター 主任社会教育主事 柏木 睦 氏）
- ・夏のセミナー（講演：あべけん太 氏 ダウン症のタレント）
- ・冬のセミナー（講演：井口啓太郎 氏 文部科学省障害者学習支援推進室）

3つのワーキンググループによる研究



リサーチグループ

生涯にわたって主体的に学び続けるために、学校で学んだことの何が活用され、何が必要かを明らかにするため、卒業生を対象にした調査を行い、結果を考察する。



資源活用グループ

生涯学習を行うには、地域資源の活用が不可欠である。本校が関わっている地域資源を整理するとともに、さらなる活用のために何が必要かを考察する。



MIグループ

自ら学びに向かうには、得意な学び方で十分に学習した経験が重要である。児童生徒個々のよさや長所に着目し、「MI（マルチ知能）」を活用した授業づくりを行う。

(3) 研究2年目（令和2年度）

生涯学習についての研修会の実施

- ・校内研修会（秋田県教育庁特別支援教育課管理主事 小山高志 氏
秋田県生涯学習センター主幹（兼）学習事業班長 皆川雅仁 氏
秋田県生涯学習センター主任社会教育主事 柏木 睦 氏
秋田県生涯学習センター社会教育主事補 栗田 寿 氏）
- ・夏のセミナー（講演：平井 威 氏 明星大学客員教授）
- ・公開研究協議会（講演：引地達也 氏 みんなの大学校長）

3つのワーキンググループが中心となった研究推進

卒業後の暮らしにつながる「はたらく（仕事）」「くらす（生活）」「たのしむ（余暇等）」の3観点で子どもの学びを見直すことにした。

生涯学習（Lifelong Learning）を見据えた教育課程を検討する「LLミーティング」を設定し、研究を進めた。



(4) 研究結果の発信

夏のセミナー，冬のセミナー，公開研究協議会，研究紀要，ホームページ等で発信